

夏空の下、真っ白な校舎がまぶしい。目の前には、太陽の光を浴びてキラキラ輝く青い海が広がる。この夏、かつて「日本一海に近い学校」と呼ばれた鹿屋市の旧菅原小学校が体験型宿泊施設に生まれ変わり、再スタートを切った。

名前は「ユクサおおすみ海の学校」。7月中旬のお披露目会で施設を見学した。外観は学校そのものだが、中はきれいに改装されていた。校長室はベッドとシャワールームが設置され、ホテルの個室仕様に。パソコン室は雑魚寝の大部屋、理科室は食堂、音楽室はシルクスクリーンの体験教室になっていた。

一方で、黒板やランドセル入れなどはそのまま

学校 えるがみよ

生かし、掲示物を貼った画びょうの穴やゼロハンテープの跡など学校生活の名残もあって、何だか懐かしい気分になる。

今後、地域住民も巻き込み、大隅の自然や文化を満喫する各種体験活動を充実させる予定という。旅行者だけでなく、スポーツ合宿や研修の受け入れも見込んでいる。

県内では小中学校の閉校が相次ぎ、過疎、高齢化が進む地方にとって大きな打撃となっている。ただ、廃校を活用する動きも増えていて、地域の活性化に貢献する例もある。ユクサおおすみ海の学校は開校したばかり。子どもや大人の笑い声が響く、にぎわいの場としてよみがえることを期待したい。